

| 科目名 | 畑 作 実 習 | 教員名 | ひがしだ しゅうじ 東田 修司 | 開 講 コース | 作物生産 花 園 芸 | 2 年次 | 前・後期 |
|--|---------|-----|--------------------|--|---------------|------|------|
| <p>・ 目的と内容</p> <p>目的の1つは、畑作輪作に組み込まれる主要4作物の生育上の特徴と栽培方法の要点を学ぶことにある。実際の畑作生産の場は機械化されているので、作物に触れじっくり観察する機会は意外に少ない。実習では作物を自ら手植えし栽培管理することにより、作物の育っていく様を体感できる。</p> <p>もう一つの目的は、1つの作物につき数種類の処理を行い、その違いを観察し、データ化し、まとめることにある。計画、実施、検証(plan do see)のサイクルは生産活動から日常生活に至るまで必須である。単に、体を動かして作物を栽培すれば実習完了とはならない。実施し事項、経過、結果をまとめて次につなげる訓練を行う。</p> | | | | | | | |
| <p>・ 授業計画 [単位数：2単位、授業週数：23回]</p> | | | | <p>2コマ連続授業</p> | | | |
| <p>1. ガイダンス、秋まき小麦調査</p> <p>2. 秋まき小麦栽培管理</p> <p>3. てんさい播種</p> <p>4. ばれいしょ播種</p> <p>5. 秋まき小麦止葉期調査</p> <p>6. 豆類播種</p> <p>7. ポット試験調整、緑肥播種</p> <p>8. 小麦出穂期調査</p> <p>9. てんさい初期生育調査</p> <p>10. ばれいしょ初期生育調査</p> <p>11. 畑作物根圏調査</p> <p>12. 豆類生育調査</p> <p>13. てんさい生育調査</p> <p>14. 秋まき小麦収穫</p> <p>15. ばれいしょ最大生育期調査</p> | | | | <p>16. ばれいしょ収穫</p> <p>17. 秋まき小麦播種</p> <p>18. 小豆収穫</p> <p>19. 小麦脱穀、収穫調査</p> <p>20. 大豆収穫</p> <p>21. てんさい収穫、豆類脱穀</p> <p>22. てんさい糖分など調査</p> <p>23. 取りまとめ</p> | | | |
| <p>・ 講義の進め方</p> <p>植え付け、除草など栽培管理、収穫など農作業とデータの収集、とりまとめが授業の主体となる。作業および天候の都合上適宜座学も取り入れる。受講者は、講義時間に実施した作業内容や、作物生育の様子、作物の生育期節などを実習ノートに記録する。それらの記録は採点の対象となる。栽培管理、収穫調査及びデータのとりまとめを終えるまでは、授業を続けることとする。</p> <p>作物学関連の講義や土壌管理学、病害虫管理学および2年生ゼミナールと関連させて、授業を進める。</p> | | | | | | | |
| <p>・ 試験と成績評価</p> <p>実習記録のテスト、レポート、学習態度および出席率などに基づいて評価する。</p> | | | | | | | |
| <p>・ 担当教員から受講生諸君へ</p> <p>ほ場面積や機材の関係上、受講者数の上限を30名程度とする。</p> <p>適期作業を逃がさないように補講を行う。雨天などで作業が出来ないこともある。また、作業のピーク時には授業時間以外にも補講を行う。作物は待ってくれない。</p> <p>授業時間外にも作物を観察して欲しい。作物の見方を会得することも授業の目的である。数字からだけでは、充実したレポートを書くことはできない。</p> <p>データ取りは真剣に行う。質の悪いデータがほんの少し紛れ込むだけで、試験全体の質が大幅に低下し、レポート作成時に支障をきたす。また、その元になるほ場管理を真剣に行う。当然、整理整頓、清掃に心がける。</p> <p>本年は、リン酸、カリの減肥試験を中心に行う。本試験は肥料価格高騰のおり、経営的に有意義と考える。営農しているほ場では思い切った減肥を行えない。受講生には、試験の実施方法、肥料不足の作物の様子などを会得して欲しい。</p> | | | | | | | |
| <p>・ 使用教材</p> <p>各自、作業服、長靴、作業用の手袋などを用意する。</p> <p>必要に応じて教員がプリントを配布する。土壌管理学などの教材も適宜活用する。</p> | | | | | | | |